

【復興交付金事業計画の個別事業の実績に関する評価様式】

事業番号 D-20-1
事業名 津波シミュレーション等計画策定事業（赤浜・東地区）
事業費 総額 28,298 千円
事業期間 平成 24 年 11 月～平成 25 年 10 月
事業目的・事業地区 茨城県が作成した津波シミュレーションの結果に基づき、避難シミュレーションを実施し、課題点や避難困難地域の抽出を行うことにより、沿岸地域の住民などが安全で確実に津波から避難ができるよう、地域の特性に応じた避難施設・防護施設の整備計画やソフト対策を含む避難計画を策定する。
事業結果 ①資料収集 東日本大震災に関する、高萩市、国土交通省、茨城県の関連資料を収集し活用をした。  ②津波シミュレーション結果の整理 茨城県が作成した、津波シミュレーションの結果と避難先や、ルート等の課題の整理を行った。  ③避難シミュレーションの実施 茨城県が作成した、津波シミュレーションの結果をもとに、地形や道路状況、人口分布、歩行速度、緊急避難場所（津波避難階段整備）の有無、津波発生時間による避難開始時間などの諸条件を整理し、津波避難シミュレーションシステム（NW-MACS）を用いて、避難シミュレーションを実施した。  ④避難シミュレーションの実施結果 1) パターン 1（昼間発生、緊急避難場所無し） 943 人が避難困難者となる 2) パターン 2（昼間発生、緊急避難場所有り） 避難困難者なし 3) パターン 3（夜間発生、緊急避難場所無し） 1,461 人が避難困難者となる 4) パターン 4（夜間発生、緊急避難場所有り） 避難困難者なし  ⑤津波避難施設の検討 避難シミュレーションの実施結果を踏まえ、既存公共施設（小中学校、市営住宅）の屋上への緊急避難のため、避難階段の整備に加え、避難方向、標高のサインを整備する。

## 事業の実績に関する評価

### ① 事業結果の活用状況に関する調査・分析・評価

避難シミュレーションの結果、緊急避難場所の整備等を行うことにより、浸水・影響開始時間 24 分以上を要する避難困難者を最大被害想定 1,461 名(夜間)から 0 名となることが明らかとなった。

緊急避難場所への屋外階段や津波避難路、避難誘導サイン、海拔表示板などのハード整備に加え、情報伝達体制（津波監視カメラ、防災行政無線、避難情報配信システム）や津波ハザードマップの作製などソフト面からも津波対策を行うことができた。

### ② コストに関する調査・分析・評価

茨城県が作成した津波シミュレーションの結果を用いることにより、想定津波高等のデータ作成について市独自の検討が省略できたため、コストの縮減と、完了までの期間が短縮できた。

### ③ 事業手法に関する調査・分析・評価

茨城県が作成した津波シミュレーションの結果を用いたため、津波浸水想定の設定や、津波の水位・最大遡上高・影響開始時間のデータ活用などにより、想定した事業期間内に事業を完了することができた。

## 事業担当部局

茨城県高萩市市民生活部危機対策課 電話番号：0293-23-2215